

2010年11月17日

経済産業省 東北経済産業局
局長 豊国 浩治 様

青森県生活協同組合連合会	会長	井筒 智義
秋田県生活協同組合連合会	会長理事	大川 功
岩手県生活協同組合連合会	会長理事	加藤 善正
宮城県生活協同組合連合会	会長理事	齋藤 昭子
山形県生活協同組合連合会	会長理事	岩本 鉄矢
福島県生活協同組合連合会	会長	熊谷 純一

(公印省略)

家庭用灯油に関する要請書

向寒の砌 貴職におかれましてはますますご清栄のことと拝察申し上げます。
日頃より生協の事業と運動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、東北に住む私たちにとって冬の暖房は不可欠であり、「灯油」はその主力エネルギーとして欠かすことができない生活必需品です。灯油が適正な価格で安定的に供給されることが北国の消費者の願いです。

現在原油は、1 バレル 75～87 ドルの高値で推移しておりさらに高騰していく勢いです。08年、09年と私たちを苦しめたような「投機マネー」流入による憂慮すべき状況となっています。しかし一方で、円相場は、15年半ぶりの高値を更新し続け、10月の月間平均は1ドル82円台になり、戦後の最高値となりました。円高が進み始めた5月以降から見ると実に10円を超える円高です。

こうした情勢の中では、原油は輸入した円建てでの価格（C I F＝運賃・保険料込み到着値）で考えるべきで、C I F価格は昨年同等かむしろ下がっています。しかし、灯油1缶18㍑の配達価格は、昨年1200円台だったものが、今年は1,300円台後半から1,400円台の価格となっており、今後さらに上がる見込みです。C I F価格が下落基調の中、円高差益還元がないばかりか、元売会社からの仕切りはなぜ上がるのでしょうか納得できません。ガソリン・軽油・灯油の中で、灯油の仕切りが最も高い状態であることも、寒冷地に住むものや生活弱者などの暮らしを圧迫しています。

灯油在庫についても心配です。現在の在庫は287万klと、前年より32万kl減、おととしの352万klの8割程度という状態です。寒気が強まり、需要も本格的になってきたこの時期に、この水準の在庫で本当に大丈夫なのでしょうか。昨冬にも在庫量について要請をしたときは大丈夫というお答えでしたが、実際は4月には、元売会社からの量をテコにした強気の仕切り価格提示がありました。

また貧困と格差が広がり、ことに東北は米価の暴落などで一層きびしい冬を迎えており「福祉灯油」などの弱者救済策がかかせません。『08年冬のような秋口の灯油が2000円以上でないなら、異常高騰とはいえない』とする貴省の認識は甘く、一冬通してみると09年冬も08年冬と同じくらい高い灯油代でした。今年は、09年以上の見込みならなおさらです。つきましては、貴省を中心に国が以下の対策を速やかに執行されますよう強く要望します。

記

1. 円高差益が速やかに仕切り価格に反映されるよう、元売各社への強力な指導をお願いします。特に北国の『必需品』である灯油が、多油種より高い独歩高の状況は是正されるべきです。
2. 石油元売会社に対し、在庫削減や量をテコにした出荷規制や石油製品の便乗値上げが行われないよう監視を強化してください。
3. 社会的・経済的弱者への救済策としての「福祉灯油」が実施されるよう、国から県への助成をお願いします。

以上